

地球ひろば

ともに つくる ぼくらの未来

協力: JICA (ジャイカ)
https://www.jica.go.jp/hiroba/

キルギス①



今週のリポーター

■矢内将洋さん……日本体育大学を卒業し、2016年7月から18年7月までJICA青年海外協力隊の体育隊員としてキルギスに派遣。ナルン市エムゲクター村にあるケリンバイ公立学校で、主に体育の授業やサッカークラブ・日本クラブで運動や踊り、歌などを指導。キルギスの伝統的な音楽に合わせて作った「カラジョルゴ体操」の指導や出張授業もしています。キルギスに来て乗馬もできるようになりました!



カラジョルゴ体操

家族

8人家族です。祖母、祖父、父、父と母、4人きょうだいで私は長女。2人の弟クットウマン(11歳)とイマン(2歳)、妹ザレマ(6歳)がいます。父の弟のアザマトバイケも一緒に住んでいて、お兄ちゃんみたいです。父は羊飼いの仕事をしていて、羊や牛、馬などを育てています。夏休みにはお手伝いをしに山へ行きます。

食べ物

ペルメニ(水ギョーザのような料理)を羊のスープと一緒に食べるのが好きです。学校の給食で出てきたときはとってもうれしくなります。



ディルバルさん (小学6年12歳)

キルギス語 サラマスズブ
Саламатсызбы こんにちは



ディルバルさん(左)と妹のザレマさん

宝物

父と母からもらった健康な体です。健康だったらなんでも楽しめるし、たくさん遊べるし、将来の夢もかなえられます。



体育の授業でボール送りの準備をしているところ。写真は11月中旬で季節は秋ですが、雪が降り始めると気温は氷点下になります

夢

お医者さんです。キルギスではたくさんの方が病気になって病院を訪れます。その人たちを助けたいからです。

休日

父と母を手伝います。食事の準備や家のお掃除、洗濯などをします。たまにサライ(動物小屋)に行ってお動物の世話を手伝ったりもします。

日本なら高い山くらいの場所

標高2000mに位置するナルン市では、夏の気温は30度を超え、ジリジリとした暑さになります。ただ、湿度が低いので過ごしやすいです。冬は12月から2月にかけて常に氷点下20度を下回ります。1月が一番寒く、寒さのため学校が休校になることがあります。

自慢

村の景色はとってもきれいで土地が広くて、動物がいっぱいいます。水がとてもおいしく、ソングルという湖から流れてきていて、その水を飲むために旅行者が訪れたりしているそうです。



家の庭でディルバルさんのおじいさんが羊の世話をしています

一番うれしかったこと

幼稚園の時に父の弟におもちゃのパソコンをもらったことです。その日、父と一日中そのパソコンで遊んだことを、今でも覚えていてます。

遊び

サッカーが好きです。体育の授業も男の子と一緒に遊びます。

ビズ トゥーガンブズ



首都ビシケク市の市場



ホームステイ先の子(左)と乗馬する矢内隊員

「私たちはきょうだいだ」という意味のキルギス語の言葉。この言葉には日本への感謝の気持ちや愛国心が込められています。キルギスはかつて、ソビエト連邦(ソ連)という国の一部でした。そのソ連が崩壊した時、真っ先に救いの手を差し伸べたのが日本で、いまだにキルギスの人たちは日本

人に対して感謝の気持ちを持っていきます。また、キルギス人と日本人は顔がそっくり! その理由をキルギスの人たちはこのように語ります。「おれたちは昔、兄弟だった、その中でも肉を好んだ者たちが山(キルギス)へ行き、魚を好んだ者たちが海(日本)へ行ったんだ!」この話が本当かどうかはわかりませんが、信じたいくらいに似ています。私もキルギス人です。私もキルギス人です。間違えられ、バザール(市場)に行った時、「どこから来たの?」と尋ねられ、「日本人だよ!」と返事をすると、「うそつくな! 大人をからかうな! お前はキルギス人だ!」なんて怒られたこともあります。でも、みんな「日本人!」って聞くと笑顔で話しかけてくれます。そんな兄弟であるキルギスの人々のためにも、自分ができることをもっともっと探して日々の活動に励んでいきます。